

写真は平成7年8月撮影。
現在経蔵は白く塗られていて
墨書は見えない

天誅組百六十年

令和5年1月9日(月・祝)～3月22日(水)

私の生家の裏は鬱蒼たる氏神の社である。昼なほ小暗い社の中の八幡社の前に、般若蔵と呼ばれる経蔵があつて、その土蔵の白壁に参詣人や村の悪童たちの落書きの痕が無数に残つて風雨に晒されてゐる中に、一段高く、廂に近いあたりに矢立の筆で書いたらしいお家流の筆の跡「五條御役所、天忠中山」の文字が今なほ黒々と残つてゐる。藤岡長和 『文藝春秋』昭和十六年三月號「天誅組を見た話」より



登録有形文化財「藤岡家住宅」 NPO 法人 うちのの館

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 番地 電話・FAX 0747(22)4013

info@uchinono-yakata.com [http:// www.uchinono-yakata.com](http://www.uchinono-yakata.com)

月曜休館(祝日の場合は開館して翌日休館) 9時～16時高校生以上 300円・小中学生 200円・

藤岡家所蔵資料に見る幕末の人々

第1期「公武合体百六十年」令和4年10月1日(土)～12月23日(金)

第2期「天誅組 百六十年」令和5年1月10日(火)～3月22日(水)

王政復古の端緒、天忠組二因テ開カレタルモノナリ、日本全国中先其第一二天朝直轄ノ御民ト為リ租税半減ノ仁澤ニ浴シタルモノハ、五條庁菅下、宇智吉野両郡人ヲ以テ其初トス、天忠組ノ擾乱ハ暫時ニシテ平定シ、幕府ハ再ビ代官所ヲ置キタリト雖モ、天朝ノ名ヲ以テ發布シタル天忠組ノ諭達ハ、抹殺スルコト能ハズシテ遂ニ其歳租税半減ヲ実施セリ、是天朝ノ威厳ハ、此二幕府ノ収税権ニ亀裂ヲ生ゼシメタル初発ナリトス、設シ此諭達無カリセバ、幕府ハ自ラ進ンデ之ヲ半減スルガ如キ事アラシヤ、看ヨ下市町ハ幕兵屯在ノ為メ兵燹ニ罹リタルモノナルニ、之レ顧ミズシテ毫モ救恤(困つてゐる人に見舞いの金品を与えること)セザリシニアラズヤ、故ニ当年ノ地租半減ハ、天忠組ノ為メ皇徳ノ新二世ニ実現シタルモノト謂フ可シ

曰ク夷狄ヲ掃蕩セシメント欲セバ、挙国一致ノ力デ戮ハセザルベカラズ。之ヲ戮サント欲セバ、公武合体タラシメザル可カラズ、公武合体タラシメント欲セバ、皇妹降嫁ノ勅許ヲ得テ、朝幕間ノ融和ヲ図ルベシト、勤王家ハ頻リニコレヲ阻止シタルモ、朝廷ハ涙出娶具ノ故智ヲ襲用(シテ)そのまま受け入れることシ、遂ニ和宮ノ東下トナレリ、

『明治維新発祥記』樽井藤吉著

第二百一十一代孝明天皇

熊野三山(繪旨) 幕末、外艦渡来、上下騒擾するや、天皇宸襟を悩ませ玉ひ屢ば諸社へ御祈願あらせられしが、熊野三山へは前後九回御繪旨を寄せ玉ひきといふ。

文久二年十月二十四日、朝廷より薩州献米の内も玄米三十石を熊野三山へ御寄進遊ばされたと承はる。

文久三年亥八月十七日天誅組騒動起る。同夜紀州五條代官鈴木源内の陣屋を襲ひ、代官鈴木源内。元締長谷川泰助、用心黒澤義助。手代木村裕二郎、手代常川庄二郎等を討取り陣屋火をかけ大騒動となる

同月廿八日、天朝より左の通り仰出さる

一揆蜂起の趣き追々達 天間敵敷追討可致旨、以野々宮宰相中将被仰出候事

八月廿八日 松平肥後守容保

紀伊中納言殿

廟議一変の爲め、忠臣忽ち逆賊となる。天誅組諸勇士に対し、実に同情の涙が流れる

『皇室と紀州』毛利柴庵

然るに大老井伊掃部頭は天裁を待たないで、米国領事タウンゼント・ハリスと日米條約の調印を断行してしまった。聖上は事遂に是に至ったのは、朕が徳の及ばない所であると歎かせ給うて、攘夷の密勅をさへ下し給ふに至った。其の御宸翰(天子直筆の文書)の内に、「天下之安危に拘る一重大事之時節に幼年之者に譲り候本意なき事依之伏見有栖川三親王之中へ譲り度存候此段各存意(意図)承り度候事と仰られた。洵に恐縮の至である。御書に伏見宮有栖川云々とあるは蓋(おそらく)、貞教親王、熾仁親王、熾仁親王を指し給へるものと拝察し奉るのである。於是、九條関白尚忠等が驚愕して、固く思召止らせられるやう御願申上げたのであった。

『総裁有栖川宮熾仁親王御事跡』皇典研究所